

なんばさんこう
難波三江

(1840~1893) 南画家

天保11年 小坂村(三重町)生まれ

三江は雅号で、名は千尋と言った。13歳で難波家(宮尾組大庄屋)の養子となり、20歳のとき大庄屋を継ぐ。幼い頃から画を好み、帆足杏雨に師事する。師範学校の画家教師なども務めるが、40歳で一切の公職から離れ、画道に励んだ。花鳥画を得意とした。芝山八幡に絵馬が残されている。

参考:『大分県歴史人物事典』『三重町誌 沿革編』